

第 11 回 金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会 開催記録【概要版】

- ◆「第 11 回金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会」を 11 月 27 日（土）に開催しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催とし、県内外から多くの方にご参加いただきました。
- ◆基調講演や先進地事例報告、金沢での取組事例の報告をはじめとして、パネルディスカッションでの意見交換を行いました。

- ・開催日：令和 3 年 11 月 27 日（土）13:30～17:00（受付開始：13:00）
- ・会場：オンライン配信
- ・主催：金沢自転車ネットワーク協議会
- ・参加者数：65 名（オンライン参加 37 名、会場参加 28 名）
- ・プログラム：

1) 開会 ・公立小松大学 特任教授 高山 純一 （金沢自転車ネットワーク協議会会長） ・金沢市長 山野 之義	13:30 ～13:40
2) 【第一部】基調講演・先進地事例報告・金沢での取組報告（110 分） (1) 基調講演：「"自転車のある日常"の次の 10 年」（60 分） 講師： 東海大学 准教授 鈴木 美緒 (2) 先進地事例報告：「交通公園の運営管理及び大学生インターンシップによる実践報告について ～NPO による事例報告～」（20 分） 講師： NPO 法人 I-DO 理事 植木 和宏、副園長 稲富 洋子 (3) 金沢での取組報告（30 分） ・「街頭指導マニュアルの刊行について」 発表者： 金沢河川国道事務所 調査第二課 ・「石川県の自転車施策について」 発表者： 石川県 道路整備課 ・「自転車活用推進施策の取組」 発表者： 金沢市 歩ける環境推進課	13:40 ～15:30
3) 休憩	15:30 ～15:40
4) 【第二部】パネルディスカッション（75 分） <テーマ> 「楽しい自転車安全教育の実践に向けて」 ・コーディネーター： 北陸大学 名誉教授 三国 千秋 （金沢自転車ネットワーク協議会委員） ・パネリスト 東海大学 准教授 鈴木 美緒 NPO 法人 I-DO 理事 植木 和宏、副園長 稲富 洋子 地球の友・金沢 三国 成子 石川県サイクリング協会 理事長 岡本 勇 金沢市歩ける環境推進課 課長補佐 中谷 俊也	15:40 ～16:55
5) 閉会 ・国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 近藤 勝俊 (金沢自転車ネットワーク協議会 事務局)	16:55 ～17:00

▼【第一部】基調講演（東海大学 鈴木 美緒 准教授）



- ◇「"自転車のある日常"の次の10年」と題して、自転車の安全に関する多角的な調査研究結果から、今後求められる自転車施策についてご講演いただきました。
- ◇自転車に関するルールは、認知度が低いものも多くあり、子どもの頃の家族や自身の自転車利用が大人になってからの自転車利用に影響を与えているといった調査結果から、安全教育を受けることにより、困ったときの動き方や相手からの見え方がわかるようになり、自転車に乗るのが楽しくなることにもつながるのではないかとご講演いただきました。

▼【第一部】先進地事例報告（NPO 法人 I-DO 植木 和宏 理事、稲富 洋子 副園長）



- ◇「交通公園の運営管理及び大学生インターンシップによる実践報告について ～NPO による事例報告～」と題して、北九州交通公園を運営管理されている立場から、交通公園での事業内容や大学と連携した取組についてご発表いただきました。
- ◇個人・団体向けの交通安全教室の開催や、自転車運転免許制度の取組などを継続的に実施し、非常に多く方に利用されている実態や、大学生インターンシップと連携したプロジェクトとして、大学生自らが企画・実践し、実際に放置自転車が減少した「Keeple 活動」という取組をご紹介します。



▼【第一部】金沢の取組①（国土交通省 金沢河川国道事務所 調査第二課 細井 技官）



- ◇「街頭指導マニュアルの刊行について」と題して、金沢自転車ネットワーク協議会のこれまでの取組や、昨年度刊行した自転車の街頭指導マニュアルについてご発表いただきました。
- ◇金沢自転車ネットワーク協議会では、今後も自転車通行空間の整備等の「ハード整備」と街頭指導マニュアルを活用した自転車へのルール・マナーの周知といった「ソフト施策」の両輪による取組により、自転車関連事故の減少に取り組むという方針についてもご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組②（石川県 土木部 道路整備課 八日市屋 専門員）



- ◇「石川県の自転車施策について」と題して、石川県が取り組んでいる自転車施策についてご発表いただきました。
- ◇自転車走行指導帯を整備した主要地方道金沢井波線では、整備効果や自転車事故の傾向を踏まえ、注意するポイントを記載した周知チラシを作成したという取組、また、国道 359 号では「自転車通行環境を考える会」を立ち上げ、地元と意見交換をしながら整備方針を検討していく取組予定等についてご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組③（金沢市 都市政策局歩ける環境推進課 西 主査）



- ◇「自転車活用推進施策の取組」と題して、昨年度策定された金沢市自転車活用推進計画についてご発表いただきました。
- ◇「はしる」「とめる」「まもる」「いかし ひろめる」の4本柱のうち、「まもる」では、交通安全教育として毎月15日の自転車マナーアップ運動の取組や、「いかし ひろめる」では、シェアサイクル「まちなり」の利用状況について、コロナ禍でも通勤目的の市民利用が増えているという分析結果についてご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション①（NPO 法人 I-DO 植木 和宏 理事、稲富 洋子 副園長）



◇植木理事：北九州交通公園での経験から、何よりも子どもたちが楽しみながら学んでもらうことが大切であり、小さなうちに自転車の安全教育を受けた子どもが育つことが、ルール・マナーが守られる地域の醸成につながるのではないかと思います。

◇稲富副園長：交通安全教室を実施する上では、子どもたちに交通公園が楽しかったという印象を持ってもらえるよう、遊びの要素を必ず入れるようにしています。また、子どもだけでなく、保護者も一緒に楽しむことも大切です。

⇒三国先生：最初から遊びの要素を入れていたのですか。

◇植木理事：最初は利用者を増やすことを目標に、幼稚園等への営業活動に注力していましたが、次第に交通公園の整備に予算がつくようになり、イベントなども企画するようになりました。

⇒三国先生：リスクを認識するにはどのような教育が効果的ですか。

◇植木理事：加害者目線になる機会があるとリスクを学ぶことができます。例えば、実際に子どもたちに自動車の運転席に座ってもらい、死角を認識してもらうなどの取組があります。

◇稲富副園長：自分の体験談を話すなど、実際にあった話のほうがより真剣に聞いてもらうことができます。



▼【第二部】パネルディスカッション②（金沢市歩ける環境推進課 中谷 俊也 課長補佐）



◇金沢市では、小学校3年生を対象にした交通公園での自転車安全教室や、高齢者交通安全教室など、ライフステージ別に自転車の交通安全教育を実施しています。また、自転車条例の改正により、損害賠償保険の加入義務化や、中学生以下の子どもがいる保護者や高齢者に対するヘルメット着用の努力義務化がされました。

▼【第二部】パネルディスカッション③（石川県サイクリング協会 岡本 勇 理事長）



◇最近は家族でサイクリングを楽しむ方も増えており、まずは大人がルールを認識し、守る姿勢を子どもに見せることが大切です。中学生・高校生に対しては、ルールを押し付けるのではなく、「なぜ？」の部分を知識として教えることが効果的です。高齢者に対しては、後方確認ができるかなど、ご自身の身体能力を確認していただくことが必要です。

▼【第二部】パネルディスカッション④（東海大学 鈴木 美緒 准教授）



◇中学生や高校生はルールを知っていたとしても、大人が守っていないならば守らなくて良いと認識します。ルールを守っていることがマジョリティで、守らないことは恥ずかしいと感じるようになることで、自然と安全な方向に社会全体が向かうのではないのでしょうか。金沢の街頭指導のように、人の目があるということも重要な要素だと思います。

⇒三国先生：法定外の自転車レーンでもレーン内からはみ出てはいけないと思っている人がいるなど、法定の規制と法定外の施策の認識のズレについてはどのように考えていますか。

◇整備の意図を道路利用者にも学んでもらう必要があると思います。現在はハード整備に道路利用者の理解が追いついていないイメージです。

⇒中谷課長補佐：海外の事例では、大人も当たり前のようにヘルメットを着用していますが、日本との意識の違いはどこにあるのでしょうか。

◇海外では自転車は車両という考え方が浸透していますが、日本では歩行者の仲間だと思っている人も多いです。まずは、自転車は車両で車道通行であることを前提として認識していただくことが必要だと思います。



▼【第二部】パネルディスカッション⑤（地球の友・金沢 三国 成子氏）



- ◇街頭で自転車に乗った高校生を見ていると、事故につながりそうな危険な運転をしているケースが非常に多く見られます。自転車に乗る人は、リスクを知っておくことが必要だと思います。
- ◇以前、デンマーク式の親子自転車教室を実施した際に、子どもたちが最初来たときとは見違えるほど最後は積極的になりました。自転車の乗り方を学ぶことで、子ども自身が育つ力を引き出すということがわかりました。



- ◇高山先生：金沢で実施している街頭指導は、現場主義に基づいており効果的な取組だと認識しています。また、皆さまの発表から、楽しんで学ぶということも大切だということがわかりました。
- ◇各年代に合わせた交通ルールやマナーを自然に学べるようなゲームを作ることも、一つの手段だと思います。